

公益社団法人日本女子体育連盟 平成 29 年度総会議事録

日時：2017年5月28日(日) 13:05~16:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟・国際会議室

1. 開会宣言 笹本重子副会長
2. あいさつ 高橋和子会長、松本千代栄名誉会員、川口千代顧問、片岡康子顧問、村田芳子顧問、高橋眞琴参与、林眞幾子参与

3. 出席者および書記の確認

- <議決数> 正会員(加盟団体代表):出席14団体、委任状15団体
特別会員:出席41名、委任状129名
計 199名/298名 (※定款16条...現数の1/2により総会成立)
- <出席実数> 顧問3名、参与2名、監事1名、名誉会員1名
正会員(加盟団体代表)14名、特別会員41名 計 62名
- <書記> 羽岡佳子特別会員、小笠原大輔特別会員

4. 議事録署名人の選出 高橋和子会長、佐分利育代鳥取県女子体育連盟代表、宮本乙女特別会員

5. 議長選出 議長に高橋和子会長を選出

6. 議題

(1) 報告事項

1) 会長報告

高橋和子会長より、資料に沿って報告された。

① 慶弔・表彰等関係

顕彰/第3回 JAPEW 松本千代栄賞・三宅香氏(兵庫)

第5回 JAPEW 功労賞・池田裕恵氏(東京)、坂佳代子氏(宮崎)、島内敏子氏(東京)
外山陽子氏(新潟)、林眞幾子氏(東京)

第13回 JAPEW 指導者賞・石井尚子氏(東京)、木村みや子氏(神奈川)、倉林栄子氏(埼玉)
坂田浩美氏(鳥取)、樋ちなみ氏(山梨)

叙勲/川口千代顧問 瑞宝中綬章 11/10

見舞/熊本地震お見舞いと義援金寄付(熊本地女子体育連盟・日体協) 6/1

弔意/照明家・いながきかつひこ氏 逝去 7/22 香料

長内昭子・元青森県女子体育連盟会長 逝去 9/5 弔電

西間木リツ・元福島県女子体育連盟会長(101歳) 逝去 11/15 弔電

② 後援・協賛承諾および役員等応嘱関係

応嘱/(公財)スポーツ安全協会 理事及び副会長-村田顧問

(公財)日本体育協会 監事-村田顧問

(公財)日本体育協会 評議員-高橋(眞)参与

(公財)日本体育協会・全国スポーツ指導者連絡会議 代表委員-笹本副会長

(公財)全国大学体育連合 大学体育関連情報調査チーム研究員-飯田常務理事

日本スポーツ体育健康科学学術連合運営委員-細川副会長・高野牧子常務理事

日本体育学会理事-高橋会長

後援/日本教育シューズ「足育研修会」

第24回ねりま体操フェスティバル

第55回全日本学生なぎなた選手権大会(及び大会顧問)

第11回子ども身体運動発達指導士養成講習会

アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ 2016
岡山県女子体育連盟創立5周年記念ダンス発表会
女性スポーツ勉強会 in いわて盛岡
第5回NSCA国際カンファレンス
第18回なかの国際ダンス・コンペティション
体操フェスティバル 2016 OSAKA (及び大会顧問)

③補助金関係

(公財) ミズノスポーツ振興財団/女子体育振興助成金交付 ¥1,000,000
(公財) スポーツ安全協会/助成金交付 ¥500,000
日本教育シューズ学校体育振興基金/助成金交付 ¥250,000

④研究および会議出席等関係

- ・研究関係/本部と加盟団体との共同研究 (詳細は事業報告参照)
継続/愛知県女子体育連盟 研究テーマ「各発達段階に応じた『創作ダンス』の諸課題の追求」
(共同研究者: 寺山由美)
新規/鳥取県女子体育連盟 研究テーマ「インクルーシブシステムとしてのダンス学習の可能性」
(共同研究者: 高野牧子)

・会議等出席関係

全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)運営委員会 4/23, 6/4, 7/2, 8/3, 10/8, 12/10
(公財)日本体育協会 加盟団体事務局長会議 4/13-花澤事務局員
学校体育諮問委員会 片岡・村田顧問・高橋会長 5/21
日本スポーツ体育健康科学学術連合総会出席 細川副会長 (同連合監事として) 6/11
加盟団体講習会会長講師: 福島 8/1、北海道 9/4
(公財)日本体育協会「名称変更に関する調査」回答 9/17
学校体育諮問委員会 村田顧問・高橋会長・細川副会長・寺山理事 9/19
(公財)日本体育協会 全国スポーツ指導者連絡会議 佐藤常務理事 12/11

⑤主催、共催事業関係 (詳細は事業報告参照)

インターナショナル・ダンス・ワークショップ
第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル (神戸)
JAPEW SUMMER SEMINAR 2016 (教員免許状更新講習会を含む)
JAPEW-DMIL (ダンスムーブメント指導員) A・B・C級養成および検定講習会
JAPEW-DMIL 指導員クリニック
第50回全国女子体育研究大会 (愛知大会)
ダンスムーブメントセミナー2016 in 埼玉
第60回未来世代の研究発表部門&卒業ダンス作品発表部門

⑥連盟関係

内閣府へ定期提出 (事業計画等) 3/31
全国理事会 5/14、2017.2/11
平成28年度総会 5/29
内閣府および(公財)日本体育協会/27年度事業報告・28年度事業計画・財務諸表等届出 6/30
内閣府立入検査 7/7
正会員懇談会 11/6
JAPEW 賞選考委員会 (敬称略)
指導者賞 5/29 出席委員: 会長、細川、林、飯田、佐藤、小松、(山西; 書面对応)
松本千代栄賞 5/29 出席委員: 会長、笹本、細川、杉山、片岡、村田、川口

功労賞 5/29 出席委員：会長、笹本、杉山、片岡、高橋眞、林、石澤

⑦その他

「科学研究費助成審査システム改革 2018」に関するパブリックコメント提出 5/21

総務省 H28 経済センサス活動調査に回答 細川副会長 6/6

NHK主催・アマチュアスポーツ関係者新春懇親会出席：高橋会長 1/11

(公財) スポーツ安全協会普及奨励助成事業申請書提出 1/19

NSCA 国際カンファレンス (幕張メッセ)：高橋会長 1/27

コンベンション誘致懇談会：内田・花澤事務局 1/31

日本教育シューズ主催 新春懇談会：高橋会長 2/3

『(公社) 日本女子体育連盟学術研究第 33 巻』刊行

第 33 巻を電子ジャーナルとして J-STAGE に公開予定

大学機関別認証評価専門委員推薦調書提出：細川

19thIAPESGW 2021 招致

2021 年 第 19 回国際女子体育連盟会議 (東京大会) 開催決定

2) 平成 29 年度事業計画 (別紙資料)

高橋和子会長より、資料に沿って報告があった。

3) 平成 29 年度事業予算 (別紙資料)

細川江利子会計担当理事より資料に沿って報告があった。

4) 会員の承認 (別紙資料)

- ・笹本重子庶務担当理事より資料に沿って報告があり、承認された。
- ・笹本重子庶務担当理事より「女子体育」購読者数について説明があり、年々減少している購読数について協力要請がなされた。

5) その他

以下の報告があった。

- ①『学術研究』規程
- ②国際女子体育連盟第 18 回世界大会 (マイアミ) 視察報告
- ③加盟団体報告

(2) 審議事項

笹本庶務担当理事より、以下の事業について活動報告があり、全会一致で承認された。

1) 平成 28 年度事業報告

DVD 映像による活動報告があった。

I. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

(1) 関連研究プロジェクト

(高橋会長)

○研究タイトル

『女子中学生の運動習慣の向上 - ダンスプログラムを通して -』

○申請者／細川江利子 (埼玉大学) 高橋和子 (横浜国立大学) 笹本重子 (日本女子体育大学)

高野牧子 (山梨県立大学) 飯田路佳 (十文字学園女子大学) 八木ありさ (日本女子体育大学) 笠井里津子 (日本体育大学) 佐藤廣子 (竹早教員保育士養成所・非)

- 研究背景：子どもの豊かな運動やコミュニケーションの乏しさによる弊害が叫ばれて久しい。特に、中学校女子では「1週間の運動時間0分が67.9%もいる」との報告がある（文部科学省平成26年度調査報告書）。この現状への対応策として、全国の中学生1万人への調査結果では、中学校女子はダンスを肯定するとともに、褒めて指導すれば運動意欲が喚起されることが明らかになった（高橋和子2015）。子どもの体に起きている異変の早期発見と対処のため、文部科学省は2016年から健康診断項目に「運動器（体を支え動かす役割をする体の器官の総称）に関する検診」を追加した。運動器の機能を改善する方法としてはストレッチやボディワークなどの有効性が報告されているが、特に女子中学生が好む傾向にあるダンスも有効な手立てとなるのではないだろうか。そこで、本研究では女子中学生を対象とし、楽しく体を動かすことを習慣化して運動器の機能不全に対処できるようなダンスプログラムを開発し、その有効性を実証することを目的とする。
- 研究報告：研究1年目にあたる平成28年度は、ダンスプログラムの開発・映像作成に向けて、資料および先行研究の収集、プログラム内容の検討を行った。2年目の平成29年度は、ダンスプログラムによる女子中学生への介入実験を行い、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」「運動器検診」等を実施する予定である。

(2) 加盟団体との共同研究

(高橋会長)

以下の共同研究を実施した。

(継続) 愛知県女子体育連盟（共同研究者：寺山由美）

研究テーマ「各発達別段階に応じた『創作ダンス』の諸課題の追求」

○結果：本研究は、当初「各発達別段階に応じた『創作ダンス』の諸課題の追求」として開始されたが、愛知大会へ向かいつつ研究テーマが「仲間と踊る 想いを伝える 想いをつなぐ」という視点に絞られた。さらに研究の観点として、「どのようなかわりからイメージや動きを広げることができたか」、「仲間と踊ることによってどのようなつながりが生まれたか」の2点を各部会（校種）共通の課題と設定した。愛知大会では、各部会での成果が発表された。指導者と学習者のかかわり、教材とのかかわり、学習者の主体的なかかわり等が重要であり、発達段階による様々な手立てが明らかとなった。

(新規) 鳥取県女子体育連盟（共同研究者：高野牧子）

研究テーマ「インクルーシブシステムとしてのダンス学習の可能性」

(3) 全国女子体育研究大会

第50回全国女子体育研究大会(愛知大会)

□実行委員会（加藤理事）

期 日 2016年11月18日(金)・11月19日(土)

会 場 岡崎女子大学・短期大学、愛知県立旭丘高等学校、日本福祉大学東海キャンパス、東海市芸術劇場

主 催 (公社)日本女子体育連盟 愛知県女子体育連盟

後 援 スポーツ庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県体育協会

テーマ 「愛・未来へつなげる知ーいこまい、やろまい、踊ろ舞ー」

内 容 (18日) 分科会Ⅰ(幼児、大学、高校、生涯スポーツ)授業・研究発表

(19日) 分科会Ⅱ(小学校、中学校、生涯スポーツ)・全体会

参加者 全国の幼・保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導関係者等 628名

講師・役員 137名、公開演技参加者306名、公開演技鑑賞者316名 計1,387名

参加費 6,000円

<概要>

1日目・18日の午前は幼稚園と大学の自由見学から始まり午後は幼稚園・大学、高等学校、生涯スポーツの3つの会場に分かれ、公開保育、公開授業、ワークショップⅠが行われ、引き続いて研究協議・指導講評、ワークショップⅡが開催された。翌日の19日の午前中は小学校において研究発表、中学校では公開授業、生涯スポーツではワークショップⅢが3つの会場で行われ、午後には、東海市芸術劇場大ホールにて全体会が行われた。オープニングから開会式、JAPEW賞授賞式、研究報告、特別公演（愛知出身の平山素子氏）、公開演技、閉会式と続き、最後は会場全体で踊り、フィナーレを迎えて大会は盛会裏に終了した。

Ⅱ. 女子体育に関する講習会及び育成事業

(1) サマーセミナー

JAPEW SUMMER SEMINAR 2016—平成28年度夏期講座—

□生涯スポーツ／授業・保育専門委員会

(飯田常務理事、佐藤常務理事、寺山理事、長津理事)

期 日	2016年8月27日(土)・28日(日) ※29日(月)ー学校体育コースのみ
後 援	スポーツ庁、東京都、(公財)日本体育協会、(公財)スポーツ安全協会、 (公財)ミズノスポーツ振興財団
会 場	国立オリンピック記念青少年総合センター (NYC)
内 容	講演(開講式・講演)、ワークショップ(実技・理論)
参加者	全国幼保・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者等
参加費	生涯スポーツコース：2日料金：会員 12,960円、一般 15,120円、学生 7,560円 ※会員=正会員(加盟団体代表)・特別会員および『女子体育』定期購読者 学校体育コース：1日料金：会員6,480円、一般7,560円、学生3,780円 ※学校体育コースは1日ごとの参加が可能
JAPEW-DMIL 指導員クリニック	DMIL有資格者 5,400円
教員免許状更新講習(1日料金)	会員・非会員 6,480円
養成講習会(3日間)	会員・非会員・学生 16,200円

<概要>

本年度のテーマは、「アクティブ・ラーニングとしてのダンスー主体・共生・創造ー」とした。さらに、生涯スポーツコースは「“道・動・導 ～D oする?～”」、学校体育コースは「アクティブ・ラーニングとしてのダンス授業」をテーマに、2日間開催された。今年度は、学校体育コースを3日間開催とし、1日ずつの受講を可能とした。また、教員免許状更新講習を同時に開講した。加盟団体から1名の無料参加を募り、8団体が利用した。参加者の内訳は、会員147名、一般68名、学生17名、加盟団体枠8名の計240名であった。また、教員免許状更新講習は、延べ人数22名が受講した。

初日、生涯スポーツコースで甲野善紀氏による講演「武術から学ぶ驚きの身体操作法～からだが楽になる使い方～」から始まり、本連盟顧問である片岡康子氏をはじめ、バラエティに富んだ内容で実技が行われた。学校体育コース(教員免許状更新講習を含む)では高橋修一氏による講演「育成すべき資質・能力に基づいた体育・保健体育の指導の在り方」から始まり、育成すべき資質・能力を踏まえたダンスを含む体育学習への適切な提言が示された。午後からは高橋和子会長、田島正浩氏の実技が行われた。

2日目は、生涯スポーツコースで山口創氏による講義「ココロとカラダー身体心理学から考える健康になるヒント」、安井洋子氏による実技「生き生きと生活するために必要なピラティス」から始まり、多様性のある実技が開講された。学校体育コース(教員免許状更新講習を含む)では、外部講師として赤堀文也氏をはじめ、ダンス指導の具体的な指導法を中心においた実技が行われた。

3日目は、DMIL指導員クリニックおよび養成講習会を開講した。学校体育コース(教員免許状更新

講習を含む)において運動会や部活動の指導を中心に実技が行われた。

参加者のアンケートでは、「レベルの高い内容で、よい刺激をたくさんもらった」などの感想があり、それぞれ設定したテーマに即した講習会であった。一方で、「講習日が参加しにくい日程」などの意見もあり、今後も検討や改善が必要であることが示唆された。

(2) 未来世代の研究発表会

第60回未来世代の研究発表部門&卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会（宮本理事、茅野理事）

期 日 2017年2月11日（祝・土）

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター（カルチャー棟小ホール）

内 容 ①研究発表部門 <第60回未来世代の研究発表会（卒論・修論・博論）>

②卒業ダンス作品発表部門

<概 要>

3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による、研究とダンスの発表会が無事に終了した。各大学において、ご指導下さった先生方に心より感謝申し上げたい。当日は研究発表者54名、ダンス作品発表者42名（このうち両方に参加した学生は15名）、ダンス招待校生徒・学生51名、座長や関係者、観客としての来場者を加えて300名を超える参加人数であった。

研究発表は、口頭発表4題、ポスター発表48題のエントリーを得て活発に質疑が行われた。ダンス発表は、今年も様々なジャンル（モダン、コンテンポラリー、創作、リズム系等）様々なグループ（研究室、部活動、有志等）からの8エントリーと招待作品2作であった。会場はほぼ満席、卒業の思いをかみしめながら踊り、また鑑賞し、心からの拍手や声援で盛り上がる会となった。

参加者アンケートより紹介する。口頭発表「実際に教育現場を経験された方の発表は、とても説得のある論文であったと思う。教育実習を経験したのでイメージしながら聞いてそれいいな!という目線で聞くことが出来た」「それぞれテーマに沿って丁寧に調べていて聞いて面白かったです。」ポスター発表「様々なテーマの発表があり、広く学ぶ事ができました。」「自分が研究したことに対して一生懸命に発表を行っていた様子が感じられました。」ダンス「貴重な舞台に立たせて頂いたこと、いろんな方の4年間の集大成を見ることができたこと大変嬉しく思います。ありがとうございました。」「全ての大学からエネルギーを感じました。来年度から教員という職に就きますが、ダンスの魅力子ども達に伝えていきたいです。」「招待作品、素晴らしかったです。生で見られて良かったと思いました。」フィナーレは出演者を中心に観客も巻き込んで踊りと友好の輪が広がった。未来を担う若者を応援するこの行事を継続していきたい。

(3) ダンスムーブメントセミナー

□指導員制度専門委員会（笹本副会長）

広域連携推進事業/ダンスムーブメントセミナー2016 in 埼玉

共 催 埼玉県女子体育連盟

期 日 2017年2月18(土)・19(日)

会 場 埼玉県立武道館

後 援 スポーツ庁、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、公財)埼玉県体育協会

講 師 細川江利子、笹本重子、高橋和子、高野牧子、八木ありさ

宗村典子（DMIL-A級インストラクター）、佐藤廣子

参加数 県外40名、県内60名、講師等16名 計116名

<概 要>

埼玉県女子体育連盟のご尽力により、県内外の生涯スポーツ指導者・学校体育関係者等、北海道から沖縄までの広い範囲からダンスムーブメントに関心の高い方々が参集し、講義と実技の充実したセミナーとなった。さらに、多くの県から大勢が参加された懇親会では楽しく和やかな交流の時を共有

することができた。温かなご配慮とつながりに感謝を申し上げたい。また、県内の方々に DMIL への関心を高めていただけたようであり、普及・促進への嬉しい実りを感じている。

(4)「ダンスムーブメント指導員」養成事業（略称;JAPEW-DMIL） □指導員制度専門委員会

①「ダンスムーブメント指導員」養成講習会〈A級―第13回、B級―第17回、C級―第20回〉

期 日 2016年8月27日(土)・28日(日)・29日(月)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技 計21時間 (※27日・28日はサマーセミナーAコース受講に代える)
講 師 高橋眞琴、飯田路佳、佐藤廣子、飯田義明、林眞幾子
受講者 今年度資格取得希望者 A級0名、B級3名、C級3名 計6名

②「ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 2016年9月17日(金)・18日(土)・19日(日)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験
講 師 高橋和子、高橋眞琴、笹本重子、細川江利子、高野牧子、飯田路佳、佐藤廣子
受講者 B級3名、C級3名
合格者 B級3名、C級3名
検定委員 片岡、高橋眞、林、村田、高橋和、笹本、細川、飯田、佐藤
概 要 本年も、優れた資質の指導員を輩出することができた。今回はA級受講者が0名だった。
詳細は『女子体育』10・11月号で報告した。公認指導員現数は159名。

③「ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日 2016年8月29日(月)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 実技研修
講 師 片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、笹本重子、笠井里津子
受講者 A・B・C級 有資格者 57名
概 要 本年も多くの公認指導員の参加があった。クリニックおよび養成講習会に関する詳細は『女子体育』12・1月号で報告した。

Ⅲ. 機関誌その他の学術刊行物の発行

(1)『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会(高野牧子常務理事、高橋うらら理事、中村理事)

①刊行 隔月刊・年間6回とし、発刊は発刊月前月の25日発刊とした。

構成：通常号4本、特集号2本(ダンス指導解説特集号、AJDF報告特集号)

②方針 平成28年度も引き続き、通常号80頁、増刊号120頁、横書き、写真の掲載等、同様の方針で取り組んだ。

③購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円

④年間テーマ 「アクティブ・ラーニングとしてのダンス —主体・共生・創造—」

⑤月テーマ

- 4・5月号 (通常号) 「主体的に学び合う・育ち合う」
- 6・7月号 (通常号) 「男性教師から学ぶ」
- 8・9月号 (特集号) 「アクティブ・ラーニングによる表現・ダンス指導事例集」
- 10・11月号 (特集号) 「第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)報告特集号」
- 12・1月号 (通常号) 「踊る快感・動く楽しさ」
- 2・3月号 (通常号) 「溢れる想いを表現に」

(2)『学術研究』発行 『学術研究』編集委員会 (高野牧子常務理事・佐分利理事)
『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第33巻を刊行した。

IV. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

(1)全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) <29th All Japan Dance Festival-Kobe>

AJDF-KOBE実行委員会 (八木常務理事・平田理事)

期 日 2016年8月3日(水)・4日(木)・5日(金)・6日(土)

会 場 神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館

主 催 (公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会

主 管 第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)実行委員会

後 援 スポーツ庁、(公財)日本体育協会、NHK(日本放送協会)
(公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会
(公財)神戸市スポーツ教育協会、(公財)ミズノスポーツ振興財団
(一財)地域活性化センター

協 賛 (株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社

協 力 (公財)ユーハイム・体育スポーツ振興会

内 容 ①開会式
②創作コンクール部門(高校/予選・決選、大学/予選・決選)
③参加発表部門
④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品)
*特別プログラムは大ホールにて2回公演 (入場料¥4,000)

表 彰 文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1)、
特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)

参加校数 ①創作コンクール部門 高校/90・大学/27 計117校
②参加発表部門 高校/45・大学/18 計63校 (サボちゃんズ含64作品)

参加人数 ①創作コンクール部門 高校/1,970・大学/480 計2,450名
②参加発表部門 高校/ 821・大学/334 計1,155名

参加都道府県数 29

TV放映 NHK Eテレ 8月20日(日) (愛知・岐阜・三重は8月27日)

- その他
- ・第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)販売
 - ・第29回大会のDVD(Blu-ray)販売の申し込み
 - ・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号にて報告

<概要>

参加者数は延べ3,606人で概ね昨年並み、参加校数は微減となった。参加都道府県の増加については今後も取り組んでいきたい。開会式ではここ数年の例に倣い、参加校紹介、参加者代表による宣誓とサポちゃんズ協力による「みんなでおどろろ」などを実施した。本年もNHK放映のために幕開けコールを中ホールで撮影する、舞台袖から見た舞台上の様子をサイドスポットライト支柱に取り付けたミニカメラで撮影する、などの希望があり、総務と式典係が対応した。参加作品のための音楽使用に関する報告書書式の改訂、また美術品などの知的財産権に関わるルールについて情報収集し、次年度以降へ向けての課題を整理し、開催要項に反映するようにした。

(2) 国際的な研究交流事業 □国際交流専門委員会(八木常務理事 田中葵委員長、伊藤理事)

① 国際女子体育連盟 (IAPESGW)、その他諸団体との連携

- 日本代表である(公社)日本女子体育連盟会長・高橋和子、NPO 法人 JWS (Japanese Association for Women in Sport) 代表・小笠原悦子氏、WSF ジャパン (女性スポーツ財団) 日本支部事務局・高橋昭子氏との連絡調整を行った。
- 2021年に第19回 IAPESGW 大会を東京で行うことの可能性について、定例理事会、常務理事会、IAPESGW 執行部などから意見聴取、並びに情報収集を行い、招致準備委員会を設置して招致案を策定。NYCに事前予約を相談の上、IAPESGW 担当部署に申請した。
- IAPESGW 責任発行 “Inspirational women in Asia: making a difference in physical education, sport and dance. (Edited by Canan Koca, 276 pages)”, 担当部分’Pioneers for Dance Education of Japan in Modern History (120-137) (2016年9月発行) を執筆した。

② インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

- 期 日 2016年4月30日(土) 14:00~16:00
- 会 場 日本体育大学世田谷キャンパス スポーツ棟 1F ダンス場
- 主 催 (公社) 日本女子体育連盟
- 協 力 フィットネスセッション実行委員会
- 講 師 Bonnie Bainbridge Cohen 氏
- 内 容 Body-Mind Centering®創始者であり、アメリカのソマティクス(身心学)の先駆者である Bonnie Bainbridge Cohen 氏を迎え、「内側から捉える、感じる、身体」を基盤としたダンスワークショップを実施した。骨格標本を用いて解剖学的に体の仕組みを学んだ後、骨盤からの足の動かし方等、体の内側を意識する内容を体験した。丁寧な説明と共に、骨を一つ一つ意識することで、参加者は普段の体の動かし方との違いに驚き、新たな身体感覚を発見している様子であった。また、受講後のコメントシートから、今後の体の動かし方、踊り方にいきる内容であったことがうかがえた。

- 参加者 65名(一般4名、会員11名、学生50名)
- 参加費 会員3,240円 一般5,400円 学生2,160円

③ (公社) 日本女子体育連盟活動情報の国外への発信

- ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。
- IAPESGW News Letter へ連盟の活動を投稿した。

V. 研究の奨励及び研究業績の表彰

JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会(笠井常務理事、石澤理事)

JAPEW 賞は社団法人日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、平成 24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代栄賞」が制定された。2016 年 5 月 29 日に、松本千代栄賞選考委員会、功労賞選考委員会、指導者賞選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。表彰者には、第 50 回全国女子体育研究大会(愛知大会)開会式(11 月 19 日)において表彰状と副賞を授与し、顕彰した。なお、表彰者氏名は機関誌『女子体育』誌上およびHP 上で公表した。

① 第3回松本千代栄賞

受賞者 三宅 香氏(兵庫県)

選考委員会(委員長)高橋和子

(委員)杉山重利、川口千代、片岡康子、村田芳子、笹本重子、細川江利子

② 第5回 JAPEW功労賞

受賞者 池田裕恵氏(東京都)、坂佳代子氏(宮崎県)、島内敏子氏(東京都)

外山陽子氏(新潟県)、林真幾子氏(東京都)

選考委員会(委員長)高橋和子

(委員)杉山重利、片岡康子、高橋真琴、林真幾子、笹本重子、石澤宣子

③ 第13回 JAPEW指導者賞

受賞者 石井尚子氏(東京都)、木村みや子氏(神奈川県)、倉林栄子氏(埼玉県)

坂田浩美氏(鳥取県)、樋ちなみ氏(山梨県)

選考委員会(委員長)高橋和子

(委員)山西哲郎、林真幾子、細川江利子、飯田路佳、佐藤廣子、小松恵理子

④ JAPEW研究奨励賞

受賞者 該当者なし

選考委員会(委員長)高橋和子

(委員)金子明友、細川江利子、八木ありさ、高野牧子、笠井里津子、茅野理子

VI. 広報・普及活動

□広報・普及委員会(高野美和子委員長)

(1) 『女子体育』購読促進活動

- ・『女子体育』購読会員増員のための活動(広報・普及および編集専門委員会、事務局)を行った。
- ・新規及び継続会員獲得、新卒学生への購読推進及び購読期限切れ会員への対応を行った。

(2) 企画・広報

- ・事業報告・事業計画・財務諸表(決算書・予算案等)の情報をHPに公開した。
- ・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- ・未来世代の研究発表会のエントリーをHP上で行った。
- ・加盟団体の情報をHPに掲載し、相互リンクを行った。

(3) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第33巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開した。

2) 平成28年度決算報告(別紙資料)

- ・細川江利子会計担当理事より資料に沿って決算報告があった。

中村久子監事より監査報告があり、全会一致で承認された。

3) 理事及び監事の選任及び退任

- ・平成29・30年度の理事候補者20名・監事候補者2名が全会一致で承認された。
理事候補：高橋和子・細川江利子(戸籍上の氏名：鈴木江利子)・八木ありさ・飯田路佳
佐藤廣子・高野牧子・寺山由美(戸籍上の氏名：高松由美)・宮本乙女・古関美保子
高野美和子(戸籍上の氏名：小林美和子)・高橋うらら・平田利矢子・茅野理子
中村恭子・長津芳・熊谷佳代・原田純子・佃陽子・佐分利育代・小松恵理子
監事候補：中村久子・吉牟田美代子
- ・本総会の終結を持って任期満了となる、平成27.28年度の計5名の理事<笹本、笠井、石澤(富山)、加藤(愛知)、伊藤(大阪)>を代表して、笹本理事及び加藤理事より挨拶があった。

(3) その他

- ・全国大会の開催について、会長より、2018・2019・2020年の開催地は未定であることが報告された。その件について片岡顧問・村田顧問より発言があり、都府県の代表の方から現状報告と意見交換がなされ、オリンピック後には鹿児島、千葉での開催が候補に挙げられた。また、林参与からの発言もあった。
- ・本会出席の20都府県代表より昨年度の活動報告と今年度の活動予定及び報告、また課題を含めた現状報告がなされた。
- ・熊本県からは義援金についての謝辞が述べられた。
- ・各県内での「女子体育連盟」の通称について、「女子」を取るなどの話題も上がった。
- ・次回全国大会開催決定時期についての質問があり、会長より次のように回答があった。「前回の全国理事会で報告を行ったが、来年度の全国大会を、本部である日本女子体育連盟が開催する余力はない。夏頃には各県に何らかの形で連絡をし、全国大会の前には議題として挙げられるようにしたい。」

7. 議事録確認 書記(羽岡佳子、小笠原大輔)による、議事録の確認があった。

8. 閉会宣言 笹本重子副会長

平成29年5月28日

議長 会長 高橋 和子
署名人 鳥取県女子体育連盟代表
佐分利 育代
特別会員 宮本 乙女